



臨床工学部(入職1年目)
臨床工学技士

まつなか らい あ
松中 雷阿

高校生のとき、祖父の病気をきっかけにこの職業を知り、少しでも力になりたいと考えて、臨床工学技士を目指しました。

この仕事をする上で大切にしていることは、患者さんの話に耳を傾けて、現場の状況を把握し、チームの一員として、いま自分にできることは何かを考えて行動することです。

今後は、学会や勉強会、資格取得にも積極的に取り組み、たくさんの専門知識を身につけて、一人でも多くの患者さんに貢献したいと思っています。先輩方から多くのことを学び、一日も早く一人前になれるように頑張ります！



放射線部(入職1年目)
放射線技師

おさきのぞみ
尾崎 望未

以前から多くの人の役に立てる医療関係の仕事に興味がありました。また、親の勧めやドラマの影響もあり、技師の仕事に憧れるようになり、この仕事に就きました。

日頃から心がけていることは、患者さんの気持ちを考え、寄り添うことです。検査内容や手順を丁寧に説明し、安心感を与えられるようにしています。

今後は勉強会などにも積極的に参加し、多くの知識を身につけていきたいです。周囲の人からたくさんのことを吸収しながら、より多くの人の役に立てるように尽力します！

趣味: アウトドア

お気に入りの場所: 家のソファ

旬素材で 健康レシピ

栄養
管理室が
発信！

管理栄養士

ながた ともこ

永田 朋子



今回は、洗いが少なく、手軽に作れる簡単おかずのご紹介です。

夏野菜には、強い紫外線や熱中症、夏バテから体を守るために欠かせないビタミンやミネラル、食物繊維などが豊富に含まれています。また、梅干しに含まれるクエン酸には、疲労回復や食欲増進の効果も期待できます。

団子にかけるつゆは、温かいままでも冷やしてもどちらでもおいしくいただけますよ。

旬の野菜を上手に取り入れて、暑い季節を元気に乗り切りましょう！

no. 30 夏野菜を使ったえび団子

材料
(2人分)

はんぺん……………1枚
むきえび……………30g
枝豆(さやから出したもの)……………10g
とうもろこし……………20g
片栗粉……………大さじ1
油……………大さじ2
○つゆ
水……………1カップ
顆粒和風だし…小さじ1/3
みりん……………小さじ1
しょうゆ……………小さじ1
酒……………小さじ1
梅干し……………1/2個
大葉……………1枚



作り方

- ①梅は種を取り除いてたたき、大葉は千切りにする。
- ②丈夫なポリ袋にはんぺんとえびを入れ、手でしっかりと潰す。
- ③②に枝豆、とうもろこし、片栗粉を加えてよく混ぜる。
- ④フライパンに油を熱し、③を一口大に丸めて焼き、火を通す。
- ⑤つゆの材料を鍋に入れて火にかけ、ひと煮立ちさせる。
- ⑥器にえび団子を盛り、つゆをかけ、大葉と梅をのせて完成。

当広報誌「Smile」は、2017年の創刊以来、皆様に親しまれ、このたび記念すべき第30号を迎えることができました。今後さらに、有益で魅力ある誌面づくりを目指し、現在読者アンケートを実施しております。回収箱は、受付B・E・F、総合受付、図書ラウンジ「ひだまり」内に設置しておりますので、お気づきの点やご感想など、ぜひご意見をお寄せください。皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。



JCHO 徳山中央病院広報誌「Smile」
vol.030 2025年8月1日発行

ご意見・お問い合わせは… JCHO 徳山中央病院 総務企画課
TEL: 0834-28-4411 E-mail: main@tokuyama.jcho.go.jp
発行/JCHO 徳山中央病院
direction&design/株式会社 しろくまワークス
writing/小野理枝 photo/Photo Office MOTHER LEAF

Tokuyama Central Hospital

Smile

【スマイル】

地域のみなさまと『JCHO徳山中央病院』をつなぐ
コミュニケーションマガジン

ご自由に
お持ち帰り
ください

vol.030
August.2025

診療科情報 P1-2

救急科

救急科 清水 弘毅

Hello! 部署訪問 P3

本館4階病棟(外科)

特定看護師 P4

ICU(特定集中治療室) 早川 由起

地域医療クリニック突撃レポート P5

こやま歯科医院

よろず相談室

P6

REPORT!・ここにもSMILE!
CLOSE UP! 健診センター

表紙のはなし: フレッシュスマイル! P7

臨床工学技士 松中 雷阿 放射線技師 尾崎 望未

旬素材で健康レシピ P7

夏野菜を使ったえび団子

管理栄養士 永田 朋子

JCHO徳山中央病院

救急科

Emergency Medicine



救急科 主任部長
清水 弘毅

当院に救急科が開設されてから14年。当初は救急医2名、救急外来専門の看護師10名という体制でスタートしました。その後、救命救急センターが設立されてから少しずつ規模を拡大させ、現在は救急医5名、看護師を含めたコメディカルスタッフ約50名で治療にあたっています。

救急科はテレビドラマの影響もあり、華やかでカッコいいイメージを持たれる方も多いと思います。しかし、あのようなドラマの世界は救急科の母体が大きいか、都会をモデルにしたもので、私たちのような地方の救急科は、必ずしもそのような姿とは一致しません。地域の医療機関と密接に連携しながら、地道な活動を積み重ねています。

当院の救急科の使命は、周南医療圏を中心に、救急車対応をはじめとした緊急を要する疾患への迅速な対応です。たとえば、心停止の危機にある患者、すでに心臓が停止した患者、複数の外傷を負った患者などに対して、どこからどのように治療を始めるべきかを判断し、各専門医と連携して最適な治療方針を選択しています。専門医が診たほうが良いことは専門医に任せ、私たちが得意とする分野は救急科が対応します。このような総合的な判断と柔軟な対応は、今後AI(人工知能)がいくら進化しようが、私たちが負けることはないと自負しています。

多くの病院では、救急外来で診療を受けた後、入院が必要になると、それぞれの専門診療科が引き継ぎます。

担当医が途中で変わることもあり、診療の流れが分かれがちです。一方、当院の救急科は、救急外来や一般病棟、ICUを一つのユニットで連携しており、救急外来での初期対応から、入院中の治療、さらに集中治療が必要な場合まで、救急科のチームが一貫して対応しています。これは全国的に見ても珍しいシステムです。

さらに、当院は一次から三次までの幅広い救急患者を受け入れているER型救急です。一次救急は比較的軽傷の患者、二次救急は手術や入院を必要とする患者、三次救急は一次・二次救急では対応が難しい重篤な救急患者を対象としています。県内で一次から三次救急まですべての救急患者を受け入れている病院は、山口県立総合医療センターと当院のみで、全国的に見ても少数です。

救急患者数
一日
平均 **63.8名**

救急車搬送件数
一日
平均 **16.0件**

心肺停止状態搬送患者数
年間 **192件**

(2024年度実績)

地域一体となって支える救急医療体制

近年、当医療圏の東方に位置する岩国市あるいは柳井市医療圏からの搬送も増加しています。当院が重症例を断ってしまうと、救急隊は1時間以上をかけて大学病院等のある医療圏へ患者を搬送せざるを得ません。そのため、「求められれば断らない」をモットーに、なんとかして受け入れができるよう、ベッド数の調整、勤務の調整をしながら日々の努力を続けています。

それでも地域で搬送される救急車数全体でみれば、当院が受け入れているのは全体の約6割です。残りの約4割は当院が断っているのではなく、救急隊が「徳山中央病院にばかり負担をかけてはいけない」「地域の救急医療体制は自分たちが支えるのだ」と考えて他の病院を選定し、近隣の病院がそれに応えてくださっています。平日昼間には、入院設備を持たない診療所も救急車対応を行っています。救急外来は常に高い緊張感と責任を伴う過酷な現場ですが、この苦勞を理解くださっている消防、地域の病院・診療所に支えられながら、地域の救急医療体制が維持されているのです。

周南医療圏を担う、 救命救急センターの役割と新たな取り組み

当院では最近、RRS(院内急変対応システム:Rapid Response System)を導入しました。これは、入院患者さんの急変の兆しを早期に察知し、迅速に対応するシステムです。具体的には、病棟スタッフが「いつもと様子が違う」「少し息苦しそう」「何となく元気がない」などの急変の前触れとなるような変化に気づいた際、すぐにRRSチームへ連絡します。RRSチームは、医師や看護師、検査技師などで構成されており、連絡を受けると速やかに現場に駆けつけ、その場で診察・検査・治療の判断を行います。従来は、明らかな異常が起これば対応が遅れがちでしたが、RRSによって「なんとなくおかしい」という段階から組織的に対応できるようになりました。この取り組みによって「急変の発生率が低下する」というデータがあり、全国でも導入が進んでいます。

また、今後はプレホスピタルケアも積極的に行っていきたいと思っています。プレホスピタルケアとは、病院に到着する前段階での救急救命処置のことです。院内で治療するよりも早く、現場に医療スタッフを派遣し、より早く治療を開始することができれば、救命率のアップや後遺症の軽減が期待できます。そのプレホスピタルケアの一つがドクターカーです。現在、山口県では、宇部市(山口大学病院)と山口市(山口済生会病院)で運用されていますが、山口県の東部と西部では導入されていません。そのため、この周南医療圏でもぜひ取り組んでいきたいと考えています。

救命のその先へ—「その人らしさ」を支える医療

テレビドラマの世界では、救急医療はカッコよく華やかに描かれがちです。ただ、現実にはハッピーエンドなことばかりではありません。現在の医療の限界、限られた医療資源で地域医療を支える難しさがあります。

治療を選択していただく中で、ご家族にとって厳しくつらい話をしなければならないことも少なくありません。救急科として、人の命を救うことは最大使命ですが、ただ「延命すること」だけが目的ではありません。「どう生きるか」を考えると、「どう死を迎えるか」もまた、大切な問いだからです。

高齢化社会から超高齢化社会へ移行していく時代の中、命の最期をどう迎えるかは、ますます多様な価値観に基づいた個別の課題となっています。ご本人、ご家族それぞれの考えを尊重し、心情に寄り添った医療を提供することが、私たち救急科の目指す姿です。

人は誰しも、いつか死を迎えます。救命はもちろん大事ですが、それと同じくらい「その人らしい最期」をどう支えるかも医療の大切な役割だと考えます。平均寿命が延びた現代だからこそ、人生の幕引きにも多様なあり方があります。最期までその人がその人らしくいられるよう、医療の立場から支えていけるチームでありたいと思います。

【DATE_1】

当院の救命救急センターには、救急看護認定看護師1名、特定行為研修修了看護師5名、DMAT隊員3名、そしてICLSインストラクター(※日本救急医学会が公認する蘇生トレーニングコースの修了者)が15名在籍しています。

【DATE_2】

2024年5月、新棟「中央館3階」への移転に伴い、救命救急センターは新たな形でスタートしました。これまで高度治療室(HCU)と集中治療室(SCU)の2つに分かれて対応していた重症患者の治療体制を一つに統合し、すべての診療科の重症患者さんを一か所で受け入れられる体制が整いました。

Hello! 部署訪問

no.30

今回ご紹介するのは…

“本館4階病棟” (外科)

当病棟は、消化器外科・乳癌外科・呼吸器外科・血管外科の患者さんが入院される外科の単科病棟です。昨年度の年間手術件数は1,377件(うち緊急手術は273件)で、術期から回復期の看護を担っています。

なかでも最も多い疾患は大腸がん、ストーマ(人工肛門)造設術を受ける患者さんが多い傾向にあります。当院は地域の救命救急を担う基幹病院であり、緊急手術によるストーマ造設も少なくありません。ストーマは、永久的または一時的に造設され、造設部位によってケアの仕方が大きく異なります。当病棟には、ストーマ認定士の資格を持つ看護師が5名在籍しており、主治医や皮膚・排泄ケア認定看護師と連携して、ストーマの適切な位置を決定し、術後の皮膚トラブルの防止につなげています。ストーマを造設した患者さんには入院中の担当看護師を2名配置し、患者さんやそのご家族にストーマ交換の仕方やケアの方法を指導するなど、安心して在宅に戻れるようにサポートしています。また、退院後も継続的な支援が必要な場合には、毎週木曜日に開設しているストーマ外来をご案内しています。病棟と外来が連携し、可能な限りストーマ認定士が介入することで、患者さんやご家族と共に在宅での課題を考え、退院後の生活を支援しています。

次いで多い疾患は乳がん、県内でも当院の手術件数は最多です。術後は理学療法士と連携し、機能が低下した腕の回復訓練に取り組んでいます。また、脱毛や体型の変

部署データ

・外科医師	12名	・看護補助者	5名
・看護師	38名		

本館4階病棟スタッフ

マストアイテム教えてください!

私のマストアイテムは、ノギスとはさみです。ノギスは、ストーマの直径を測るための、定期的な道具です。術後はストーマがむくんでいるため、ノギスを使って慎重に大きさを測り、適切な装具を準備します。はさみは、刃先がカーブしていて、ストーマに当てるシートを丸く丁寧に切ることができます。どちらも、装具を安全かつ正確に使うために欠かせない道具です。



看護師
にっ しのぶ
新田 忍

私は、今年4月に入職した新人ナースです。採血のときに使う駆血帯は必需品で、キレイな薄い紫色がお気に入りです。1年目だからこそ、患者さんに不安を与えないように、採血のイメージトレーニングは欠かせません。先輩や同僚が採血の練習に付き合ってくたさるのは本当にありがたく、日々支えられていると実感しています。



看護師
いのうえ なな
井上 七海

Certified Nurse

特定看護師

Certified Nurse Specialist



ICU(特定集中治療室)
看護師長

はやかわ ゆき
早川 由起

ICUで、どんな特定行為を行っているのですか?

当院は2017年より、特定行為研修を行う指定研修機関に認定されています。私はその翌年、救命センター在職中に第2期生として研修を受講しました。現在は8区分15行為を修了し、ICUの師長として勤務しています。

ICUに入室する患者さんは、急激な呼吸状態の悪化や、感染症がきっかけで手術前後に症状が悪化した際、高度な医療やモニタリングといった生命を維持するためのケアが必要です。そうした場面、特定看護師が人工呼吸器で呼吸のサポートを行うことがあります。設定が患者さんの呼吸状態に合っているかどうかを判断し、変化に応じて設定変更をタイムリーに行います。

また、ICUや手術室では血圧のモニタリングも行っています。特定看護師が、患者さんの動脈内にカテーテルを留置し、その波形をモニター上に映し出し、24時間血圧をチェックします。毎回針を刺さなくても採血ができるため、患者さんの苦痛を減らすこともできます。忙しい麻酔科医の代わりに特定看護師がその役割を担うことは、手術開始までの時間短縮にもつながっています。

ICUには長期にわたって動脈ラインを挿入している患者さんが多く、点滴が抜けたり屈曲して波形が出なくなったりすることがあります。そんなときも、看護師が特定行為を行うことで、医師を待たずに動脈ラインを挿入することができます。

そのほかにも、患者さんの痛みの程度に合わせて、特定看護師が鎮痛剤の投与量を調整し、苦痛を和らげることもできます。血圧低下などの副作用が見られた場合には、投与中止を行い、患者さんの安全を守っています。

食事ができない重症患者さんもいます。高カロリー輸液、昇圧剤や鎮痛剤などの強い薬剤を使用する場合、末梢静脈点滴では難しいことが多いです。その場合、エコー下でPICC(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル)を挿入し、安全に点滴投与を行うことができ

特定看護師って?

指定研修機関において特定行為研修を受けた看護師が、患者さんの状態を見極め、適切なタイミングで診療の補助を行います。医師による手順書に準じて、患者さんの状態に応じたタイムリーな医療行為を提供できます。

My Favorite!

友人ファミリーとキャンプに行くことにハマっています。おしゃれなキャンプグッズを使って映えるキャンプ飯を作ります。焚き火を囲んでのゆったり時間は最高です!



ます。心臓外科や循環器内科の医師からの依頼も増加しており、特定看護師がPICCを挿入する機会は増加傾向にあります。

ICUには、治りにくい創傷や床ずれのある患者さんも入室されます。特定看護師が、傷口を特殊なフィルムで密閉し、陰圧をかけることで、より早く効果的に治すことが期待できます。

仕事のやりがいを教えてください!

全てを紹介することはできませんが、このように様々な特定行為を取得した看護師が、患者さんの苦痛を和らげ、早期回復の手助けができることを嬉しく思っています。特定行為ができることは、看護師一人ひとりのやりがいにもつながっています。

ICUには、今年度新たに特定行為研修受講を開始した看護師が4名います。特定看護師がやりがいを持ち、生き生きと働く姿を見せることで、後に続く人が増えるものと期待しています。私自身、師長として、特定看護師として、その姿を見せ、特定看護師が実践の機会を増やせるように働きかけていきたいと思っています。



**地域連携クリニック
突撃レポート!**

当院と連携する地域の“かかりつけ医”をご紹介します。
専門的な診療や予防医療に対応する
クリニックの魅力や特徴をお伝えしていきます

今回ご紹介する
クリニックは…

こやま歯科医院



診療科目／歯科・小児歯科・矯正歯科
周南市大字徳山字御弓丁4181
TEL.0834-22-6622
※受付は9時～17時。診察終了時間の30分前までです。
※木曜・日曜・祝日は休診日です。※完全予約制です。初診
の方は予めお電話でお問い合わせの上ご来院ください。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00～13:00	●	●	●	-	●	●	-
14:30～17:30	●	●	●	-	●	●	-

PROFILE

山口県歯科医師会会長(現在6期目)。山口県高等歯科
衛生士学院院長。山口県歯科医師連盟会長。広島大
学歯学部卒業後、広島大学病院口腔外科に勤務。1991
年、こやま歯科医院開業。趣味はオオクワガタの飼育。

今回は、山口県で行われている「健口スマイル推進事業」について、
山口県歯科医師会会長で、「こやま歯科医院」院長の小山先生にお聞きしました。

近年、多くの研究から、お口の
健康が全身の健康に深く関わっ
ていることがわかってきていま
す。そこで山口県では、山口県歯
科医師会および山口県歯科衛
生士会、各自治体や民間企業が
一体となって、人生100年時代
を応援する「健口スマイル推進
事業」に取り組んでいます。この取り組みで
は、「健康と笑顔は口元から」を合言葉に、
ライフステージに応じたお口の健康づくり
を進めています。なかでも力を入れている
のが、妊娠婦・乳幼児への啓発活動です。

●マイナス1歳からの口腔ケア

妊娠期間の270日間と、生まれてから最
初の2年を足した「はじめの1000日」の口
腔ケアは、その人の一生の健康につながる
といわれています。妊娠を機にお口の健康
を見直すことは、生まれてくる赤ちゃんのた
めだけでなく、ママの将来の健康を守るた
めの第一歩です。

生まれたばかりの赤ちゃんの口の中には
むし歯菌は存在しません。パパやママの口
の中のむし歯菌が、唾液やスプーンを介して
移り、むし歯になる可能性があります。日頃
から周りの大人が口の中をきれいにして、
細菌数を減らしておくことが大切です。

●ママと赤ちゃんのための予防歯科

<妊娠期>

妊娠中は、つわりや食生活の変化、ホルモ
ンバランスの変化により、むし歯や歯周病に
かかりやすくなります。歯周病が進むと、低
体重児出産や早産のリスクが高まるため、
体調と相談しながら歯科を受診して、お口
のトラブルを防ぐことが大切です。

<授乳期>

赤ちゃんのあごが発達する時期。赤ちゃん
は哺乳をしながら口周りのトレーニングを
しています。しっかり抱き抱えて、おっぱい

や哺乳瓶の乳首を深く吸い付け、愛情を
注ぎながら授乳しましょう。

<離乳期>

下の歯が生え始めたら離乳食スタートのサ
イン。栄養バランスを意識して、食材の大き
さや硬さにも気を配りましょう。

<卒乳期>

頻繁な夜間の授乳や糖質の多い間食や飲
料は、むし歯のリスクを高めるため控えま
しょう。この頃から少しずつ歯ごたえのある
ものを食べさせて、噛む習慣を身につける
ことも大切です。食べたら磨くは鉄則。歯み
がきの習慣化にも取り組みましょう。

●歯科健診を受けよう!

お口の健康を守るためには、歯科医院で
の定期的な健診が大切です。山口県では、
妊娠婦を対象に歯科健診を1回無料で行っ
ています。また、周南市と下松市では、母子
健康手帳の公布時に、お口の中の健康状態
を短時間で確認できる唾液検査(SMT検
査)を実施しています。妊娠中もほとんどの
歯科治療は可能です。プロフェッショナル
ケアとセルフケアの両立で、人生100年時
代を楽しく過ごしましょう!



県下で配布されている
健口スマイルのすすめ
【赤ちゃん和妈妈編】



REPORT!

未来を見すえて、医療をつなぐ

～医療マネジメント学会 山口県支部集会より～



院長 沼 文隆

当院では令和2年に開催を予定していましたが、コロナ禍で中止とな
り、今回はその思いも込めてスタッフ一丸で準備に取り組みました。

今回のテーマは「2040年に向けた病院改革～スマートホスピタル
を目指して～」。AIやICTを活用し、将来の人手不足や地域医療の
課題にどう向き合うかが議論されました。開会にあたり、沼院長は
「医療を持続可能にするにはデジタル活用が不可欠」と語りました。

一般演題では、山口県内の各医療機関から多数の発表が寄せら
れ、医療システム導入による業務改善、看護の質向上、タスクシフト
に関する発表などがあり、参加者の関心を集めました。

特別講演では、全国57の病院を運営するJCHO本部から、システ
ム担当理事の佐藤秀暢先生をお招きし、「JCHOにおけるDXの試
み」と題してご講演いただきました。SNSの活用や、クラウドを基盤
としたAIによる情報共有の構想など、先進的な取り組みが紹介さ
れ、JCHOに所属する当院としても非常に参考になる内容でした。

さらにシンポジウム「医療DXの現状と課題」では、山口大学 医
療情報部の平野先生が医療情報学の観点から今後の課題につい
て詳しく解説。当院 医療情報部からも、AIが描く未来の病院像に
ついて発表を行いました。

下関市立病院 源様による
RPA導入の事例や、県立総
合医療センター 原田先生
の遠隔医療に関するご報
告など、実践的かつ興味深
い内容が続きました。

会場からは、県内の患者



ここにも
スマイル
SMILE

“看護補助者”の
みなさん

当院では現在、54名
の看護補助者が勤務し
ており、病棟だけでなく、
外来や透析室など院
内のさまざまな場所で
活動しています。患者さ
んの移動のサポートや
身の回りのケア、備品の
準備、環境整備などを
通して、安心して検査
や治療を受けていた
だけるよう努めています。
看護師や他の職種と連
携しながら、医療チ
ームの一員として役割
を果たしています。お困
りのことやお手伝い
が必要なときは、ど
うぞ遠慮なくお声かけ
ください。



副院長 山本 学

さんが東京のクリニックをオンライン受診する現状に驚きの声もあり、
医療の変革を実感する機会となりました。

閉会に際しては、次回開催予定地である山口労災病院の加藤院長より、
来年度のテーマが「経営」であることが発表されました。続いて、当
院 三井副院長より感謝の言葉が述べられ、会場は温かな拍手に包ま
れて幕を閉じました。

当日は130名を超えるご参加をいただき、活発な意見交換と熱意ある
発表が行われました。参加者一人ひとりが、医療の未来について考えを
深める、充実した一日となりました。ご参加いただいた皆様、ご支援くだ
さったすべての方々に、心より感謝申し上げます。(記:副院長 山本 学)

TVで発信、地域医療の未来

～KRY放送『らいふ』に沼院長が出演～

KRY山口放送のニュース番組『KRY news every.』内の生活情報
コーナー『らいふ』に沼 文隆院長が出演し、地域医療の現状や病院の
役割について解説しました。

番組では、急病時の正しい受診先の選び方や、かかりつけ医の重要
性についても触れ、「緊急でなければ、まずは一次医療機関を受診して
ほしい」と呼びかけました。夜間や休日の急病時には、まず休日夜間診
療所を利用し、症状が重い場合は救急外来や救急車の利用をと勧めまし
た。さらに、ドクターヘリの受け入れや放射線治療、心臓カテーテル
治療、災害対応施設の整備といった地域に根ざした高度医療の取り組
みも紹介。高齢化や医師不足が進む中、「適切な患者さんを適切な場所
で診る仕組みが、これからの医療には不可欠」と力強く語り、医療機関
と地域住民が連携して支え合う医療の重要性を視聴者に向けてメッ
セージを送りました。

CLOSE UP! 健診センター

PET/CT検診のご案内

がん細胞は正常な細胞に比べて
活発に増殖するため、3～8倍のエネ
ルギー(糖)を必要とします。この特
性を利用したのがPET検査です。

PET検査では、「FDG」というブドウ糖に微量の放射性
物質を加えた薬剤を注射し、がん細胞の有無・位置・大き
さを調べます。さらに、体内の構造を詳しく描き出せるCT
画像とPET画像を重ね合わせることで、がんの早期発見に
より効果的なPET/CT検査が
可能になります。検診当日の所
要時間は、約2時間程度です。

○費用:100,000円(税込)

事前診察:
医師による説明と予約日の決定、
薬剤費のお支払いが必要です。



健康管理センター
予約・お問合せ係

0834-28-4411
(受付/10:00～16:00)

医療の
ギモンにお答え! 第30回

よろず
相談室

問 介護保険対象の
「施設に宿泊して受けるサービス」とは?

答 施設に短期間宿泊し、介護や生活支援を受けられるショート
ステイ(短期入所生活介護)があります。主に、介護者が体調
不良の場合やリフレッシュしたいとき、施設入所までの待機
期間に利用されています。サービスを受けられる施設として
は、特別養護老人ホームや介護老人保健施設、有料老人ホ
ムなどがあります。詳しくはケアマネジャーにご相談ください。

地域のみなさまと当院をつなぐ地域医療の窓口

地域連携室・医療相談室

今年度より、責任者が分山 隆敏 副院長に変わりました!

退院・転院支援や、活用できる
社会制度の情報提供、患者さん
やご家族のご心配事など、ど
んなことでもかまいません。ま
ずはお気軽にご相談ください。

お電話でもOKです!

(0834)28-4411(代)

